

株式の状況

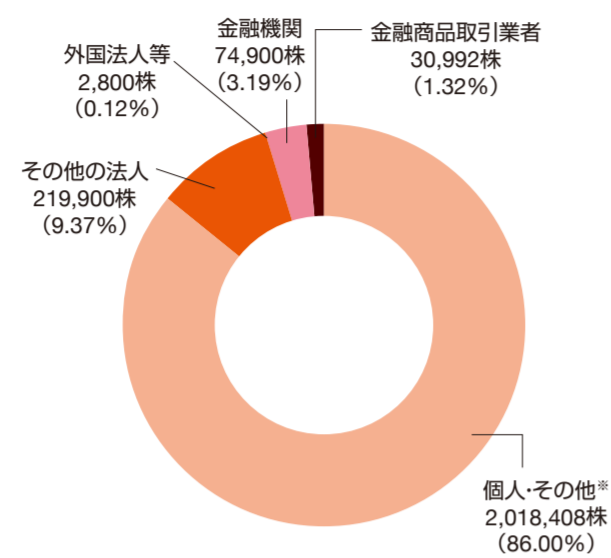
発行可能株式総数	7,788,000株
発行済株式総数	2,347,000株 自己株式101株を含む
株主数	608名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
森川 徹治	850,000	36.21
ディーバ従業員持株会	317,100	13.51
野城 剛	163,000	6.94
株式会社オービックビジネスコンサルタント	100,000	4.26
ピーシーエー株式会社	97,300	4.14
森川 敬之	70,000	2.98
和田 成史	47,600	2.02
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	45,500	1.93
鈴木 邦男	36,400	1.55
小峰 俊之	32,000	1.36

(注)持株比率は自己株式101株を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

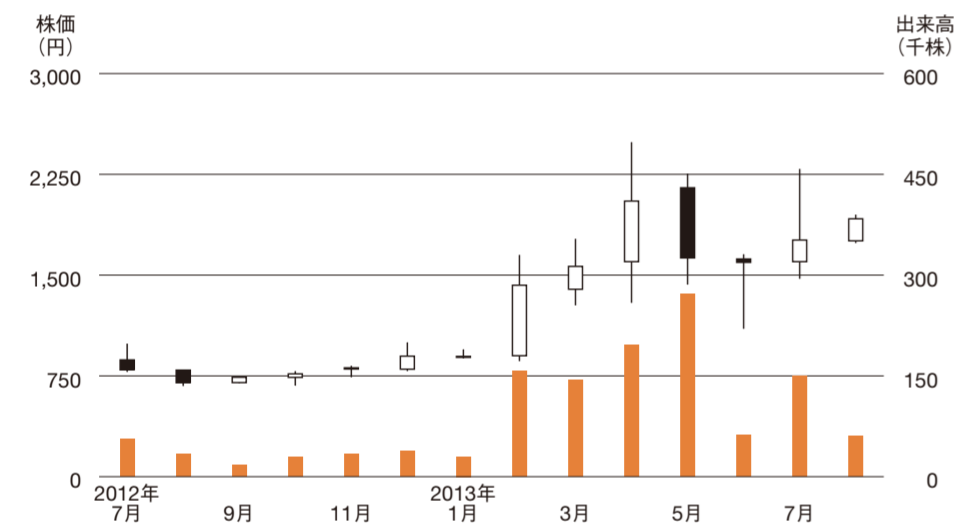


*自己株式101株は個人・その他に含まれます。

株主メモ

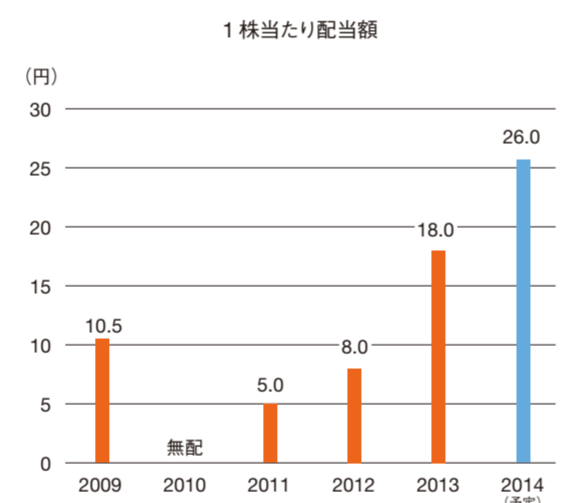
事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	事業年度末日の翌日から3か月以内
基準日	6月30日
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ(グロース)
証券コード	3836
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
公告の方法	電子公告により行います。 (http://www.diva.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

株価チャート



配当金

- 2013年6月期の配当金
1株当たり18円
(前期比10円増配)
- 次期以降は基準配当性向10%に加え、業績連動配当性向も組み合わせて配当額を決定することに変更
- 2014年6月期の配当金
1株当たり26円と予想



会社概要 (2013年9月25日現在)

商号	株式会社ディーバ
住所	東京都港区港南二丁目15番2号
TEL	03-5782-8600(代表)
FAX	03-5782-8614
設立	1997年5月26日
従業員数	連結 399名 単体 227名
資本金	2億8,840万円
子会社	株式会社インターネットディスクロージャー 株式会社ディーバ・ビジネス・イノベーション 株式会社ジール DIVA CORPORATION OF AMERICA

取締役	
代表取締役社長	森川 徹治
取締役	春日 尚義
取締役	川本 一郎
社外取締役	福谷 尚久
監査役	
常勤監査役	野城 剛
社外監査役	鈴木 邦男
社外監査役	小林 正憲



<http://www.diva.co.jp/ir/>

表紙：忍野高原二十曲峠からのダイヤモンド富士です。
富士山が世界遺産となった今年、ディーバグループはアバントグループへと進化(AVANT)して世界を目指します。

第17期 報告書

2012/7/1-2013/6/30



このパンフレットは「FSC® 認証紙」と、揮発性有機溶剤を含まない「VOCゼロ型インキ」を使用し、印刷はアルカリ性現像液を出さず、インプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な「水なし印刷方式」を採用しています。
This brochure uses FSC® approved paper with VOC-free ink, free of volatile organic solvents. It is printed using the waterless printing technology, requiring no isopropyl alcohol dampening agent and generates no alkaline waste flux.

Taking you beyond 連結経営によるグループの発展を目指して

代表取締役社長 森川 徹治

2013年6月期(当期)の業績について

2013年6月に終了しました第17期における株式会社ディーバの連結業績をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社グループは、当期において昨年10月、株式会社ジールをグループに加え、業績・業容の拡大を図るとともに、成長分野への移行と取り組みを強化してまいりました。

この結果、当期の連結業績は、売上高67億円(前期比64.1%増)、営業利益6.4億円(同57.6%増)、経常利益6.2億円(同63.6%増)、当期純利益3.6億円(同89.9%増)と、前期に比べ大幅な増収・増益となりました。

今後の当社グループは、右のような使命を掲げながら、各事業を遂行し、目標を達成することで、当社のビジョンである「100年企業」の実現を目指してまいります。

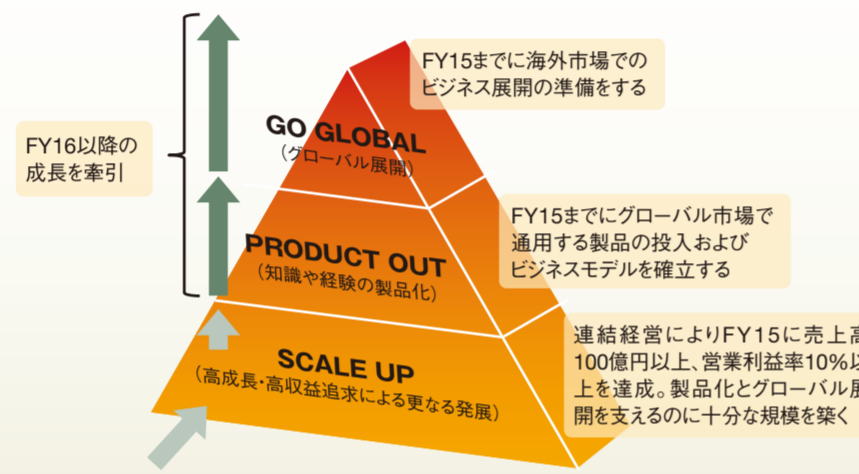
使命(論議) ~私たちの使命~

「プロフェッショナルサービスの大衆化」を通して企業社会の発展に貢献する。

- すべての企業に専門性や深い経験が求められる領域のプロフェッショナルサービスをハイクオリティ&ローコストで提供する。
- サービス生産性をITと人間教育を活用して世界最高水準まで高め、サービスビジネスをイノベーションする。
- 多様性と専門性を両立させるグループ経営を実践し、たくさんのエッジの効いたブランド企業による企業連合を実現する。

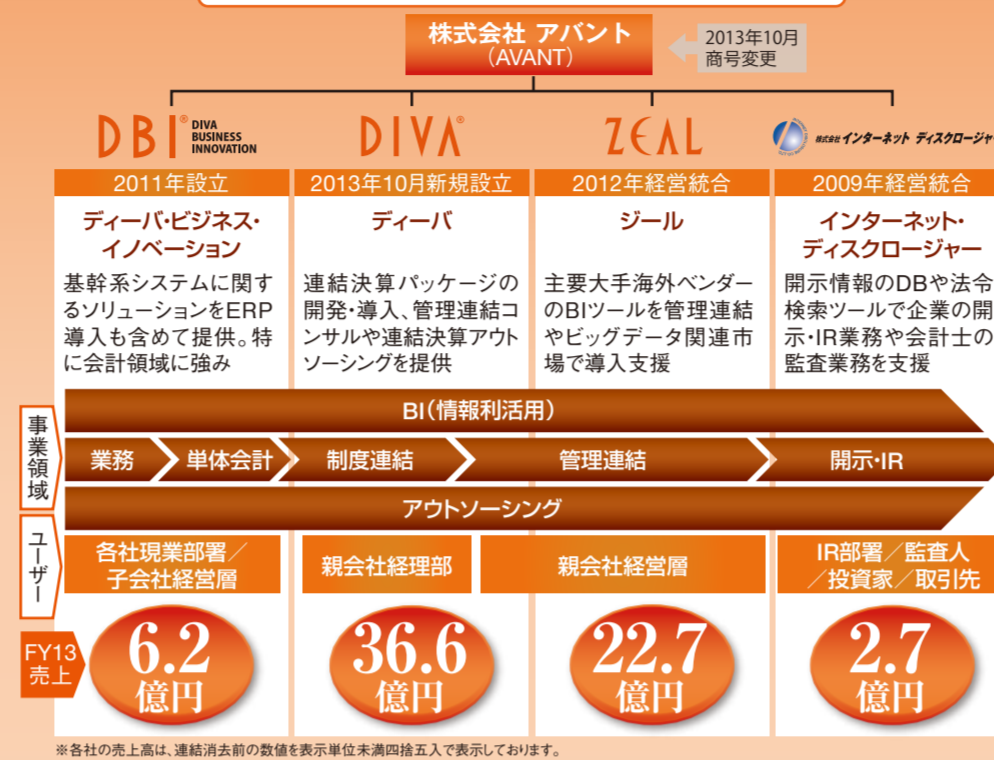
1. 顧客のビジネスイノベーションを加速する。
2. 世界に通用する情報サービス産業を実現する。
3. ノウハウ集積としてのプロダクトで一つ以上のグローバルファクトを生み出す。

基本戦略 ~スケールアップからグローバルへ~

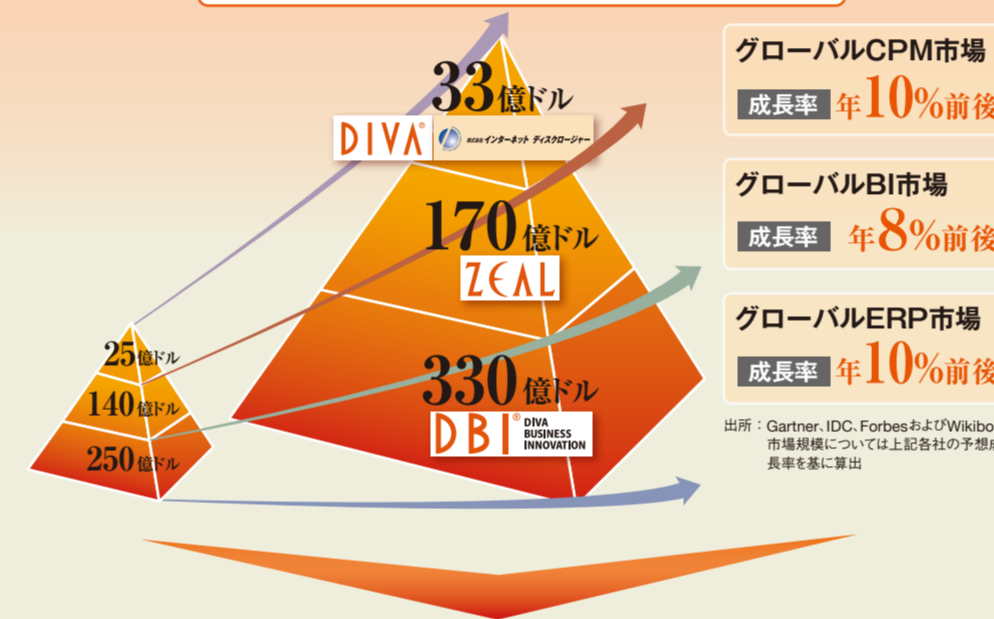


ブランドを活かすグループ経営モデルによる高収益成長企業

アバントグループの発足



成長市場に位置する各事業会社



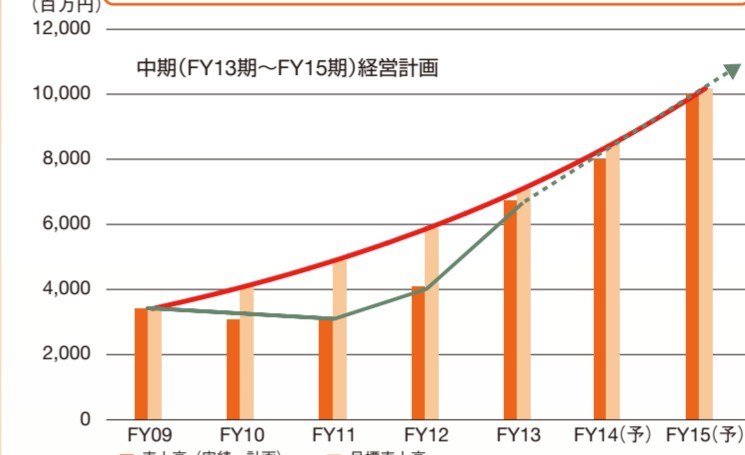
事業(そろばん) ~私たちの活動成果~

中期目標(FY2015)

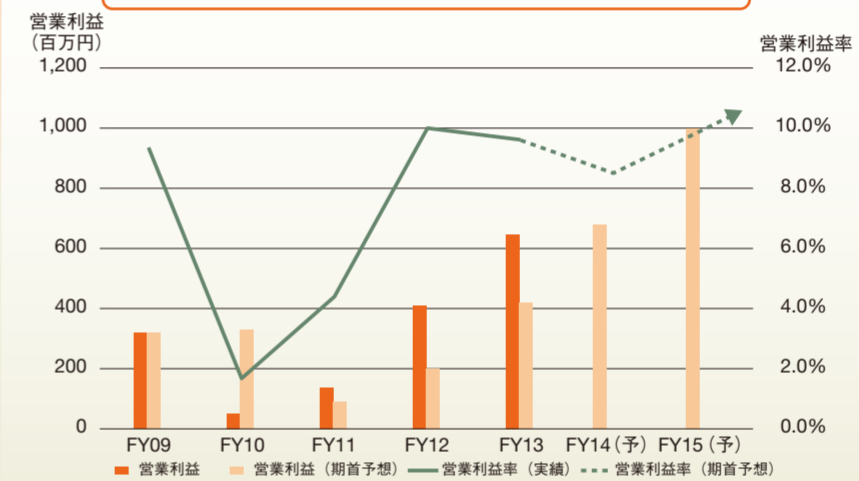
活動成果としての事業計画実現!



成長軌道への回帰(売上高)



高収益体質の確立(営業利益・利益率)



連結経営を自ら実践する企業グループへの展開

株式会社ディーバは、2013年10月1日、新設分割により持株会社に移行し、「株式会社アバント」として、株式会社ディーバ、株式会社ディーバ・ビジネス・イノベーション(DBI)、株式会社インターネットディスクロージャー(ID)、株式会社ジールを統括します。これにより、アバントは、事業環境の変化の中でグループ全体の成長に向けてマネジメントを行うとともに、傘下の子会社は、各事業に更に集中することで各々の「ブランド価値」を高めていきます。また、グループとして、共通基盤の整備を進めて将来への投資環境を整えるとともに、従業員の実験機会と労働環境の多様化を推進し、更に事業機会に応じて戦略的資本・業務提携を結ぶ環境も整備していきます。一言でいえば、アバントは、自ら「連結経営」を実践する企業グループとなることで、更なる成長を図ってまいります。

以上のような連結経営を推進することにより、アバントグループは、年間20%の売上高成長を目指しており、2014年6月期の連結業績は、売上高80億円、営業利益6.8億円を計画し、続く2015年6月期は、売上高100億円、営業利益10億円の達成を計画しています。

こうした成長戦略を進めることにより、アバントグループは、「100年企業」の実現を目指しています。そして、その実現に向けて、資本市場の重要性を従来にも増して強く認識しております。株主の皆様には、引き続き力強いご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

業績

日本基準	IFRS	日本基準	IFRS	日本基準	
連結損益計算書	連結包括利益計算書	連結貸借対照表	連結財政状態計算書	連結キャッシュ・フロー計算書	
(単位:千円)		(単位:千円)		(単位:千円)	
科目	2013年6月期 2012年7月1日~2013年6月30日	科目	2013年6月期 2012年7月1日~2013年6月30日	科目	2013年6月期 2012年7月1日~2013年6月30日
売上高	6,732,302	売上高	6,743,564	営業活動による キャッシュ・フロー	516,576
売上原価	4,061,954	売上原価	4,083,618	投資活動による キャッシュ・フロー	△687,191
売上総利益	2,670,347	売上総利益	2,659,946	財務活動による キャッシュ・フロー	290,114
販売費及び一般管理費	2,022,884	販売費及び一般管理費ほか	1,983,017	現金及び現金同等物に 係る換算差額	2,917
営業利益	647,462	営業利益	676,928	現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	122,418
営業外収益	675	営業外収益	346	現金及び現金同等物の 期首残高	2,121,988
営業外費用	19,019	金融収益	17,981	現金及び現金同等物の 期末残高	2,244,406
経常利益	629,119	金融費用	17,981		
特別利益	0	税金引当利益	659,294		
特別損失	0	法人所得税費用	278,141		
税引前当期純利益	629,119	当期利益	381,152		
法人税等	266,326	その他の包括利益	3,093		
当期純利益	362,792	包括利益	384,246		
その他の包括利益	3,093				
包括利益	365,886				

当期の売上高はジール社が第2四半期より寄与したことで6,732百万円と、前期に比べ2,630百万円(64.1%)の増収となりました。営業利益は236百万円(57.6%)の増益、当期純利益は171百万円(89.9%)の増益となり、2期連続で大幅な増収・増益を達成しました。

企業結合によるアドバイザー費用・有給休暇費用・のれんの償却上記に関する調整により利益の影響が出ています。

(その他) そのほか収益認識のタイミングによる調整などを行っています。

(注)IFRSに準拠した財務諸表ではありません。また、財務諸表は2013年8月末時点の情報を利用して集計したものです。

グループ会社のご紹介

各社のリーダーが事業内容と成長戦略をご説明します

監査法人業界で培ったノウハウを事業会社向け製品に活用し、更に成長

株式会社インターネットディスクロージャー(ID) 専務取締役・公認会計士 川西 幸子

IDは、2009年12月にディーバグループの一員となりました。有価証券報告書や決算短信など適時開示情報を対象とした検索サービス「開示Net/dSearch」と、会計・監査・税務に関する法令等の検索サービス「eRules」が主な製品で、どちらもインターネットを通じてご利用いただけます。多くの公認会計士の皆様から圧倒的な支持をいただき、監査法人業界では事実上の標準といえる検索サービスに成長しました。

現在、この秋に控えた金融庁の新EDINETシステムに対応するため、開発の真っ最中であり、一人でも多くのユーザー様にご満足いただけるよう、スタッフ一同頑張っております。また、XBRL*の裾野を広げるため、東京証券取引所でのセミナーなどさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。今後は、監査法人業界で培ったノウハウをベースに、事業会社のユーザー様にもご満足いただける製品に進化させていきたいと考えています。ぜひご期待ください。

*各種財務報告情報の作成・流通・利用できるように標準化されたXMLベースのコンピュータ言語

日本企業の海外展開を支えるグローバルERPベンダーへの飛躍

株式会社ディーバ・ビジネス・イノベーション(DBI) 取締役 松本 涼司

DBIは、連結決算の隣接領域である個社会計を中心とした、基幹系システム領域への事業展開を目指して設立されました。ただ、既に競合の多い市場のため、設立から2年間は独自性を発揮できる領域を探るとともに、事業成長の基盤を構築することに腐心してきました。その結果、急速にシェアを伸ばしつつあるマイクロソフト社のERP(Dynamics AX)を活用した会計ソリューションが、お客様企業やSIパートナーから多くの引き合いをいただいています。

今後は、増える一方の新規開業案件に対応するため、ERPそのものの多言語・多通貨といったグローバル対応機能や、グループとしての管理会計のノウハウ、そして提携等により新たに備えつつある各国の税制に関するアドバイザー機能を活用して、更なる事業成長を目指してまいります。

急成長市場で「市場の拡大以上の成長」が目標

株式会社ジール(ZEAL) 取締役 鈴木 政光

ジールは、日本のビジネスインテリジェンス(BI)の黎明期から当分野に特化するとともに、近年はCPM関連のシステムインテグレーション(SI)サービスも幅広く提供しています。多くの大手企業と協業し、時に「黒子」としてBI-CPM分野でサービスを提供し、多くの製品の導入経験・ノウハウを培ってきました。昨年10月にディーバグループの一員となり、合併後の統合を順調に進め、当期の連結決算で売上・利益に大きく貢献しました。

「ビッグデータ」の重要性が高まる今、グローバルな競争優位に向けて、情報活用による科学的経営を支える情報システムへのニーズは極めて旺盛です。現在は当社が経験・ノウハウを活かす絶好の時であり、グループ企業の中で当社は最も急成長している市場にあります。

ディーバと同じビルへの移転と新組織の整備が終わり、お客様へより高い価値を提供する準備が整いました。2014年6月期より、ディーバの製品力や顧客基盤と当社のSI力の相乗効果を活かし、「市場の拡大以上の成長」という目標に取り組んでいきます。今後のグループの成長エンジンを担うべく活動していきますので、ご期待ください。